

2023年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人 ESA アジア教育支援の会
代表者・役職名 氏名 理事長 内田 智子

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

「子どもの権利」ワークショップ パート2

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

1979年アジアの子どもたちを教育の力で貧困から脱却することを目的に創設されました。バングラデシュ・インドの紅茶農園や過疎で教育が行きわたっていない5地域13の学校や施設で、子どもたちの教育支援事業を行っています。現在運営会員26名、継続支援者382人が登録しています。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

日本国内でも「子どもの権利」の重要性が見直されていますが、その内容について理解が深まっています。ESAは世界の貧困地域の子どもたちの状況を紹介するだけでなく、誰もが持っているはずの「子どもの権利」について知り、世界で起きている問題を自分ごととして行動できる人材の育成、自分と同じように他者の大切さも認められる多様性が尊重される社会の実現を促す教材の作成を目的としています。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

- 2022年度に作成した「きみとわたしの大切なものさがし」ワークショップを実施しつつ、それをもとにした「子どもの権利」について学べる教材ボードゲーム「TOARU国」ゲームを開発・制作しました。(甲斐田先生に一部指導を受けました。)学生に対して、その実践も行いました。
- ESA関係者の「子どもの権利」に関する知識を深めるために、甲斐田万智子先生の勉強会を実施しました。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

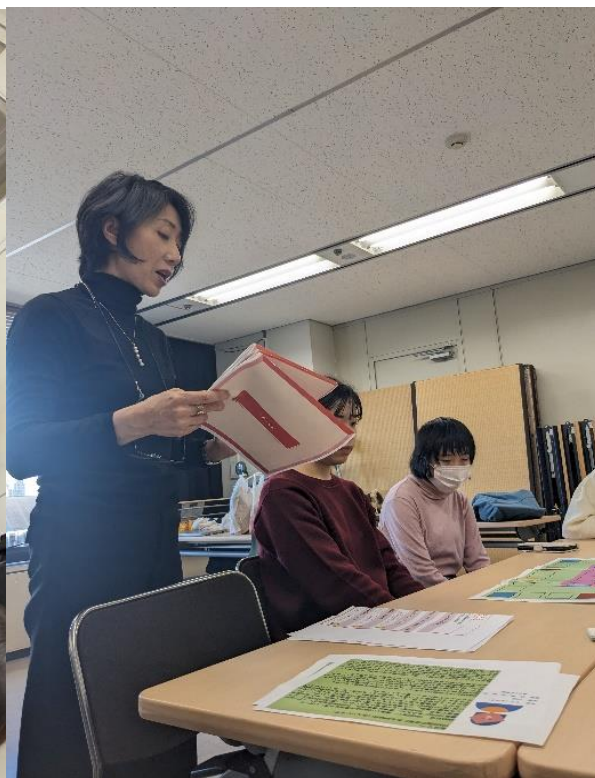
「子どもの権利」という難しい課題をどのように伝えたら日本の子どもたちも自分ごととして捉えてもらえるか、を考え、ボードゲームの種類も調べながら「TOARU国ゲーム」というロールプレイングゲームにまとめました。制作期間が長引き、このゲームの普及にまでは至りませんでした。学生たちに2度ほど体験してもらい、「子どもの権利」が守られていることの大切さやどのように守っていけるか、などゲームを通じて体感してもらうことができました。「子どもは社会を作る大切な存在」であることを、子ども自身が楽しんで知ってもらえるゲームができたので、広く活用していくことで子どもたちが生きやすい社会を実現していきたいです。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

このゲームを作成するにあたり、まず私たち自身が「子どもの権利」を正確に理解することの大切さを実感しました。ゲームの内容は、まだまだこれから深めていける部分も多く、アップデートしていく必要があるため、本格的なゲーム盤ではなく簡易な印刷で制作しました。引き続き進化させ、より良いものに改定していきたいと思っています。そして同時に、「子どもの権利」について、また世界の様々な境遇で生きる子どもたちの現状について伝えながら、自分たちがどう行動すべきか、どうしたら平和な社会が築けるのかを考えるきっかけを作れるように、このゲームの拡散に努めていきたいと思っています。

7. 参考資料: プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、「必ず」、別途、ご提供ください。

ボードゲーム「TOARU 国ゲーム」作成。ゲームを進めながら子どもの権利について考えるものとなっている。



高校生やユースに向けてゲームを使って人権について考える機会をもった。

